還暦・古希 そして

喜寿談議

これも就活、会社の資本減資
ニホンフラッシュ、10月で50周年

文・写真 (株)地域サービス 代表取締役 永井 英彰

地域サービスも25周年

（株）地域サービスができて25年を超えた。元々、旧（株）長尾鉄工所で筆者が総務部長の時代に、プレス機械の海外輸出に際し円高で苦しんだ。そこで、円高になると利益となる事業は何かをかんがえて、球根輸入に行きついた。ちょうど農産物自由化という規制緩和があり、誰で自由に球根輸入ができることとなった年である。

１９８７年秋、徳島県海外市場調査団がオセアニア地域を訪問することとなり、筆者もその一員として参加した。ニュージーランドでガイドを務めてくれたのがドクライブロウ敏子さんで、当時の徳島市長夫人・三木玲子さんと東京時代の幼馴染だと判った。これが縁で、翌年、鉄工所がカラーやサンダーソニアの球根2千万円以上を輸入した。この経験を足掛かりに（株）地域サービスを設立、オランダとチューリップ、ユリの球根輸入を始める事となった。

困ったのが意思疎通に欠かせない英語。長年使っていないのでさっぱり忘れている。仕方なく、ＮＨＫ教育テレビの基礎英語を勉強し直し、ニュージーランド輸入を通じて昵懇になった芦屋市在住（当時）中里向一氏の助言を得ながら、昨秋まで25年間、球根輸入を続けた。晩年は40フィート1個・約百万球を扱い、支払いは千2百万円程度であった。立替払いの期間が数ヶ月あるため、これ位の事業資金は常時必要だった。今後はこの資金が不要となる。

最近のオランダ館

店内はスッキリ

チューリップ球根は大型車で運ぶ

上野研究室に収まった書籍

増資と減資を同時に

今年から球根輸入を止めたが、気が付けば会社の資本金が2千万円、債務超過が5百万円にもなっている。銀行借入は無く、必要に応じて社長である筆者が会社へ無利子で貸付をしてきた。国内で有限会社法が廃止されたため、会社を健康体に戻すには株式会社を減資してダウンサイジングするしかない。そこで司法書士に、貸し付けた5百万円を会社に無償で拠出し会社の債務超過を消せないかと相談したら、それは「会社への寄付となり、相応の税金が掛かる」との返事。頭を抱えていたら、徳島少年友の会総会後の懇親会で公認会計士の工藤誠介先生と出会った。相談すると「5百万円を増資し、同時に検査役不要の5百万円以下に資本金を減資すれば良い」と教えてくれた。減資の前に増資するという発想は思いつかなかったので、専門家は流石だと感心した。

役員のなり手が無い

中小企業はどことも後継者問題や事業閉鎖問題で頭を悩ませている。地域サービスの場合も役員が高齢化し、報酬も出せないため新たな役員のなり手が無い。そこで今回の減資と合わせて、「一人会社」へ組織替えもする。できると取締役、監査役等の役員は必要が無く、代表取締役一人で全て熟せる。さらに最長10年間、登記変更の必要もない。問題は筆者がそこまで元気でいられるかであるが、株主も自分一人に纏めたので、会社の譲渡や閉鎖も単独で即決できる。その意味ではこの組織変更も就活の一つと言えようか。一連の手続費用は約42万円と聞いている。

書籍の一部を整理

就活がらみにもう一つ。今春、四国大学・上野昇講師が自宅の書斎から塩野七生全集他を引き継いでくれた。これに味を占め7月3日夜、再度古事記や邪馬台国関係など約70冊を持ち帰ってもらった。身辺に少し空ができたが、歴史関係資料や写真などがまだたくさん残っている。学生が資料等に使ってくれればありがたいのだが、そんなに上手く行くかどうかは分らない。

15年前の新聞記事

7月8日、徳島新聞板野支局巽祐策記者から旧（株）長尾鉄工所跡地問題で取材を受けた。見せてもらったのが平成10年8月22日付けの新聞記事。ここには「業績不振のため鋳造、ベアリング両部門からの撤退を決めている長尾鉄工所（板野郡藍住町勝瑞、永井英彰社長）から機械システム部門を引き継ぐ新会社「ナガオテック」が21日、設立登記された。」さらに「新会社の資本金は1千万円。長尾鉄工所は9月20日を目途に満額の退職金を支払たうえで

全従業員93人を解雇、清算業務に移る。」--とある。この頃は多忙を極めていたので新聞記事の切り抜きも無く、記憶が曖昧になっていたが、瞬時に当時を思い出して身体が熱くなった。

ニホンフラ一部上場

ニホンフラッシュ（小松島市）は6月12日、東証一部に上場した。二部上場は平成20年2月だった。6月27日開かれた中央大学徳島白門会総会で高橋栄二社長が記念講演をし、次のように話した。

中国の13億人という人口は途轍もなく大きい。よく人から次の進出先としてベトナムやミャンマーはどうかときかれるが、ミャンマーの人口は7千万人位。自社工場のある宜春市は5百50万人、市を含む構成だと6千万人もいる。近隣諸国で中国の省を超える国は多くない。それにタイやインドネシアのような暑い所では、本格的な住宅の需要は少ない、つまりマーケットが小さい。

ニホンフラッシュは今年10月に創業50周年を迎える。これに合わせて社史を編纂中で筆者も参加している。関心が高い中国での債権回収について高橋社長は「東証の審査もそこが焦点だったが、商慣習を理解して対応しているので全く問題は無い」という。また、チャイナリスクは尖閣問題などではなく、工場団地で爆発事故などが起きると突然規制が変わる。つまり、どこかの企業が事故を起こすと他社も連帯責任を負わされる事だという。

中国へ進出した企業が多くの課題を抱えている中で、優秀な中国人幹部と出会い、一部上場にまで漕ぎ着けた高橋社長に声援を送りたい。

講演する高橋社長

出版パーティ予定の林博章先生

トルコ・バチカンの話（筆者）

庭で実ったモモ

イングリッシュローズの2番花

支援協議会へ助成金

6月27日付け徳島新聞に、徳島銀行生涯学習振興財団が県内14団体へ2百20万5千円の助成金を贈るという記事が出た。上板町薬草協会や勝瑞城館まつり実行委員会等と共に徳島剣山世界農業文化遺産支援協議会も助成されることとなった。助成と合わせて、支援協議会の存在が認知されたことが嬉しい。

支援協議会は9月13日午後3時から、徳島駅西のザ・グランドパレス（徳島市寺島本町西　電話088-626-1111）で総会を開催する。引き続いて鳴門渦潮高校・林博章先生の新刊本「剣山系の世界的農業文化遺産」の出版記念パーティを予定している。支援協議会へも出版記念パーティへもたくさんの方に参加して欲しい。参加希望者は支援協議会事務局（088-641-2651）へファックスするか、hideaki@md.pikara.ne.jp　までメールを。パーティ会費は本代込みで1万円。

桜咲くバチカン報告

徳島恵キリスト教会（松茂町中喜来群恵）から話があり、7月12日に「蜂須賀桜の咲くバチカンを訪ねて」という演題で講演させてもらった。直前に南沢満雄牧師の指導で、丸2時間かけてパワーポイント用に百枚余りの写真を1枚ずつ整理した。午前中はミサに参列、参加者から「キリストの復活はどのように証明するのか」という真面目な質問もあった。私は昼食のばら寿司を楽しんだ。午後の講演には蜂須賀桜の原木がある原田家住宅（徳島市内）を管理している小倉博彦さん等たくさんの方が聞きに来てくれた。スタントラベルの渡邊淳三さんも参加してくれたので、トルコやカッパドキア、ヴェニスの建物など不明の場所の確認ができた。

不気味な出来事

参加者で北島町在住の高齢婦人からとんだ目に会った話を聞いた。7月2日、町内を散歩していたら年配の女性から「これは散歩中に摘んだ薬草です。おしたしにしたら美味しいですよ」と一束を貰った。早速、料理して一口食べたら38度以上に発熱、真っ黒の尿が出た。医者に診てもらったが良く判らない。近所で農薬散布をしていたので、残留農薬のせいでないかと推定していが、意図的だったら恐ろしい。

庭のモモが色付く

狭庭に植えた孫に因んだ桃の木にたくさんの実がなり、20個に袋掛けをしてあったところ、次々に落ち、残ったのは僅か6個。落ちた実を食べてみるとそれなりに桃の味がする。袋の掛け方が悪かったのと実の自重が重くなり過ぎたと考えられる。来年の宿題ができた。